

技術と環境の融合で未来を拓く： ホソカワミクロンワグナー株式会社 新社屋で描く次なるステージ

Technology Meets Environment: Pioneering the Future
—Wagner-Hosokawa Micron's Next Stage at New Corporate Complex—

ABSTRACT

Wagner-Hosokawa Micron Ltd. has relocated to a new headquarters in Hirakata City, Osaka, to support its growing powder coating equipment business. The new four-story steel structure integrates previously separated facilities, including offices, warehouses, and testing areas, enhancing operational efficiency. As a joint venture between Hosokawa Micron and Germany's Wagner Group, the company promotes environmentally friendly powder coating technology, aligning with SDGs. The vibrant building design reflects the company's dynamic spirit and commitment to employee motivation. With this move, Hosokawa Micron Wagner aims to further expand its business and strengthen its presence in the Japanese market.

大阪府枚方市に本社を構えるホソカワミクロンワグナー株式会社は、粉体塗装機器の輸入・販売・メンテナンスを手がける専門企業として、環境に配慮した塗装技術の普及に取り組んでいます。2024年秋、同社は事業拡大と業務効率の向上を目的に、枚方市北山に新社屋を竣工させました。これまで分散していた機能を一体化し、より強固な事業基盤の構築を目指しています。

合弁会社としての歩みと技術の進化

ホソカワミクロンワグナー株式会社は、1996年にホソカワミクロン株式会社とドイツのWagnerグループとの合弁により誕生しました。そのルーツは

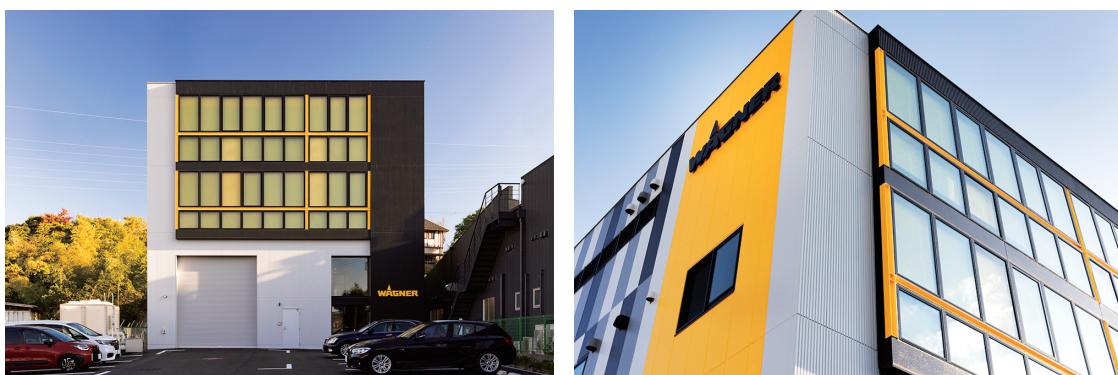


図1 ホソカワミクロンワグナー株式会社 新社屋外観。左：国道一号線側から見た正面外観。右：建物側面の様子。鮮やかな色使いが印象的なデザインで、視認性と企業イメージを両立しています。

Fig. 1 Exterior views of the new headquarters of Wagner-Hosokawa Micron Ltd. **Left:** Front facade facing National Route 1. **Right:** Side view of the building. The vibrant color scheme enhances visibility and reflects the company's dynamic identity.

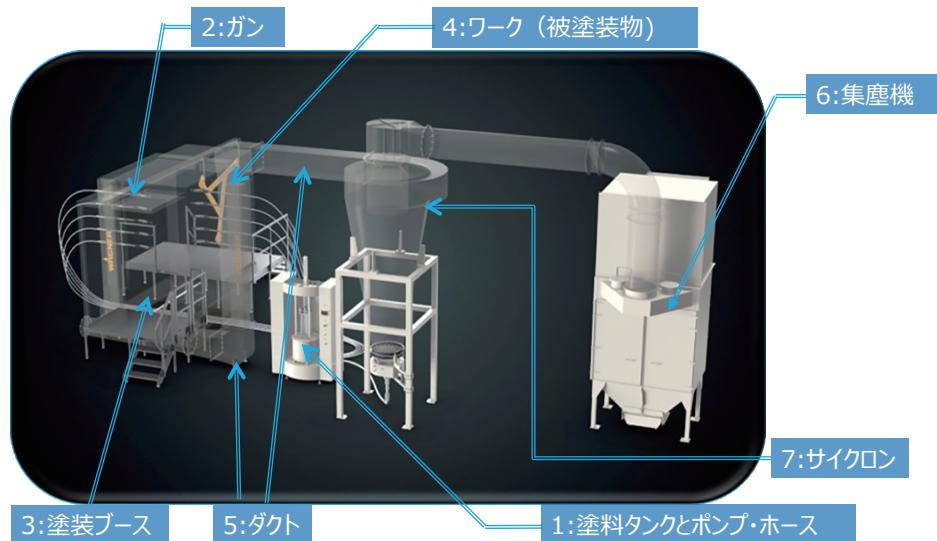


図2 粉体塗装システムの代表的な構成。粉体塗料は静電気により製品表面に付着し、加熱によって塗膜を形成する。未使用粉体は回収・再利用され、環境負荷の低減に貢献する。

Fig. 2 A typical construction of a powder coating system. Powder paint adheres to the product surface via electrostatic charge and forms a coating through heat curing. Unused powder is collected and reused, contributing to reduced environmental impact.

1979年、ホソカワミクロンがドイツESB社から粉体塗装機の輸入を開始したことにあります。合弁前はホソカワミクロン社内の「ESB部」として活動していましたが、Wagner社によるESB社の買収を契機に、合弁会社として独立しました。以来、粉体塗装技術の専門企業として、国内外の製造業に貢献してきました。

粉体塗装とは、従来の溶剤塗料と異なり、塗膜形成の過程でほとんど有機溶剤を使用しない塗装方法です。人体への影響が少なく、揮発性有機化合物(VOC)の排出も抑えられるため、環境負荷の低減に大きく寄与します。また、塗装時に付着しなかった粉体塗料を回収・再利用できるという特長もあり、廃棄物の削減とコストダウンの両立が可能です。

こうした技術は、SDGs(持続可能な開発目標)への対応としても注目されており、同社の製品は環境配慮型の塗装ソリューションとして高く評価されています。

事業拡大とともに浮かび上がった課題

同社は大阪本社と東京営業所を拠点に、全国の顧客に対応しています。近年、粉体塗装機器へのニーズが高まり、販売・サービスともに好調な推移を見

せていましたが、それに伴い、既存の施設では手狭な状況が常態化していました。

大阪では、技術開発センターに本社機能と小物倉庫・テスト場、粉体工学研究所に大物倉庫と工事関係倉庫が分散しており、業務の連携や物流効率に課題がありました。社員間のコミュニケーションや作業動線にも影響が出ていたことから、これらの機能を一か所に集約する必要性が高まっていたのです。

新社屋の概要と設計思想

こうした背景を受けて建設された新社屋は、枚方市北山1丁目に位置し、鉄骨造4階建て、延べ床面積809m²の施設です。総投資額は約3億円(既存建物の解体費用を含む)で、2024年9月30日に竣工しました。

各フロアの構成は以下の通りです：

- ・ 1階：塗装テスト場・倉庫および大物の入出荷場
- ・ 2階：商談室
- ・ 3階：倉庫および小物の入出荷場、修理室
- ・ 4階：事務所、会議室

これにより、製品の展示・テスト・修理・商談・事務業務までを一貫して行える体制が整い、業務効率が大幅に向上しました。



図3 新社屋1階に設けられた塗装テスト室では、最新の粉体塗装機器による実演と検証が行われています。

Fig. 3 The coating test room on the first floor of the new headquarters showcases live demonstrations and evaluations using the latest powder coating equipment.



図4 社員の働きやすさを重視した、明るく開放的な事務室。女性社員の意見を取り入れたカラフルな内装が特徴です。

Fig. 4 A bright and open office designed for employee comfort, featuring colorful interiors inspired by feedback from female staff.

外観は、塗装機器を扱う企業らしく、鮮やかな色使いが印象的です。国道1号線を八幡市側から洞ヶ峠を越えてすぐの場所にあり、遠景からでも目を引くデザイン性の高い建物となっています。

内装に関しては、社内で長時間過ごす女性社員の意見を積極的に取り入れ、明るくカラフルな空間を実現。色彩心理を活かした設計により、社員のモチベーション向上にもつながっています。

社員の声：働きやすさと誇りを感じる空間

新社屋への移転は、社員にとっても大きな転機となりました。以前は複数拠点に分かれていた業務が一か所に集約されたことで、部署間の連携がスムーズになり、コミュニケーションの質も向上しています。

「新しい社屋は、まるで自分たちの成長を後押ししてくれるような存在です」と語る社員もあり、職場環境の改善が企業文化にも良い影響を与えていることがうかがえます。カラフルで開放感のあるオフィス空間は、創造性や意欲を引き出す効果もあり、日々の業務に前向きな姿勢で取り組む社員が増えています。

また、来訪者からも「塗装機器の会社らしい、個性と機能性を兼ね備えた建物ですね」との声が寄せ

られており、企業イメージの向上にもつながっています。

未来への展望と社会への貢献

ホソカワミクロンワグナー株式会社は、今回の新社屋移転を機に、さらなる事業拡大と人員増強を図る方針です。環境に配慮した粉体塗装技術の普及を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することを企業使命とし、国内外の製造業に対してより高品質な製品とサービスを提供していきます。

今後は、技術開発やサービス体制の強化に加え、社員教育や働き方改革にも力を入れ、企業としての総合力を高めていく予定です。新社屋はその象徴であり、未来への第一歩でもあります。

おわりに

ホソカワミクロンワグナー株式会社は、環境と人にやさしい塗装技術のリーディングカンパニーとして、これからも社会に価値ある技術とサービスを提供し続けてまいります。枚方市の新社屋から、持続可能な未来に向けた挑戦が、今まさに始まっています。